

ぼくが生きてる、 ふたつの世界



2024年
上海国際映画祭
コンペティション部門
正式出品



伝えられない想いが
あふれます。

監督: 呉美保 主演: 吉沢亮 脚本: 港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作: 五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画: プロデュース: 山国秀幸

製作: 「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ロンダークボット/博覧京(DV)メディア・ビジュアル・サービス/キョウガ/関西日本コミュニケーションズ/アイビー・アイ/アビュス/河北新報社/東日本放送/テレビ朝日)

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給: キョウガ GAGA gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく——。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

9.20 Fri

GAGA★
CINEMA GROUP

＊コードがきこえない、またはきこえにくい親を持つ聴者の子供

親子の物語が、そしてひとりのコードダの心の軌跡が、点描のように紡がれていく――。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。



母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、「大」と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

としては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが…。



監督：呉美保 主演：吉沢亮 脚本：港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 鳥丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作：五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幼学舎刊)

企画・プロデュース：山岡秀幸

製作：小山洋平 依田賢 伊藤義彦 野村弘幸 荒木宏幸 一力豊彦 藤ノ木正哉 島居明夫

企画：宮崎大 プロデューサー：長澤佳也 音楽：田中拓人 撮影：田中朝 照明：薄田知 録音：小清水建治 美術：井上心平 装飾：櫻井啓介 小道具：青木久美子

衣装：藤子潤子 ヘアメイク：山内聖子 原田ゆかり キャスティング：神林理央子 演技事務：鈴原肇 助監督：水波圭太 制作担当：柴野淳 協力プロデューサー：高橋潤

編集：田嶋幸子 VFXスーパーバイザー：帆足誠 カラダ・メイク・ヘアメイク：リコーディング・キネマ 村みき サウンドエディター：大保達哉

ろく・チーフ演出：田中朝 石村真由美 ロケ監督：柳川信史 字幕監修：カ、一般財団法人 全日本ろうあ連盟

協賛：ヤマギノカメラ/NTTウラルティ

製作：「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ギャガ・ラボラトリー/株式会社DYミュージック&エンタテインメント/ギャガ/JR西日本コミュニケーションズ

/アイ・シー・アイ/アミューズ/河北新報社/東日本放送/シネマとうほく

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幼学舎 2024.「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会

2024/日本/カラー/ビスタ8 [C]デジタル105分/映倫：G

配給：ギャガ GAGA gaga.jp/futatsunosekai/ #FutatsunoSekai

Living in Two Worlds

ぼくが生きてる、ふたつの世界

9/20(Fri) ROADSHOW